

平成18年度動物愛護管理功労者大臣表彰の受賞者

個人

受賞者	なかむら ひろし 中村 紘（63歳） 熊本市清水亀井町
主要功績	熊本市獣医師会長として動物愛護普及啓発に積極的に取り組む一方で、平成14年には熊本市動物愛護推進協議会を設立し、会長に就任。犬の譲渡事業を推進し、熊本市動物愛護センターの犬の殺処分率を平成13年度から平成17年度にかけて、72.6%から36.6%に引き下げるなど、動物の愛護と適正飼養に関して貢献。
受賞者	まえかわ ひろじ 前川 博司（82歳） 東京都世田谷区
主要功績	昭和34年に国内唯一の動物愛護施設であった日本動物愛護協会附属病院及び動物保護シェルターの長に就任し、若い獣医師を育成するとともに、動物の保護収容、患畜の治療、動物の引取り、新しい飼い主捜しを実施。昭和52年獣医科病院を開業し、動物愛護運動の先駆者として斯界関係者に対し指導、相談等を行うなど、動物愛護の実践的な指導に貢献。
受賞者	しおつぼ みつあき 塩坪 三明（73歳） 東京都杉並区
主要功績	「自然と動物を考える市民会議」を立ち上げ、猫の不妊去勢手術助成金を求める運動、ドッグポストの撤廃運動を実施。「動物の法律を考える連絡会」を設立するとともに、具体的な項目の強化改善を求め、「動物の愛護及び管理に関する法律」の成立に貢献。また、「動物との共生を考える連絡会」の事務局長として新法のもと、更なる取組を精力的に展開し、愛護運動に貢献。
受賞者	たなか としたか 田中 稔隆（90歳） 東京都世田谷区
主要功績	動物の愛護と適正な飼養及び管理について、普及啓発するための指導者の養成として「愛玩動物飼養管理士」を約5万名輩出するなど日本愛玩動物協会の組織の充実と財政基盤の確立に貢献。

受賞者	やまぐち やすお 山口 安夫（75歳） 東京都西東京市
主要功績	総理府動物保護審議会専門委員等において「産業動物の飼養及び保管に関する基準」、「動物の処分方法に関する指針」などの策定に参画し、動物愛護管理行政の基盤作りに貢献。また、その経験と専門的学識を發揮して、動物の愛護と動物の適正な飼養の普及・啓発活動に貢献。

受賞者	いしだ さだお 石田 貞夫（77歳） 和歌山県和歌山市
主要功績	犬猫の「糞便禁止シール」「糞便自宅持ち帰り袋」を考案し、無料配布を実施することにより、飼い主のマナー向上に貢献。和歌山放送（WBS）のメインキャスターとして「動物愛護、愛玩動物何でも相談」コーナーを永年担当。県内初の動物愛護フェスティバルを企画、実行し、獣医師会の動物愛護週間事業として毎年開催。県の「動物保護管理施設」の設置に当たり検討委員として和歌山県動物愛護センターの完成に尽力する等、和歌山県の動物の愛護管理に貢献。

団体

受賞者	デビフペット株式会社 新潟県新潟市
主要功績	動物愛護思想の普及啓発に努め、補助犬育成支援やペット飼育マナーの向上などの活動を継続。 新潟県中越豪雨災害及び新潟県中越大震災に際しては、避難所を始め仮設住宅での動物飼育者支援や被災動物の救助活動に大きく貢献。